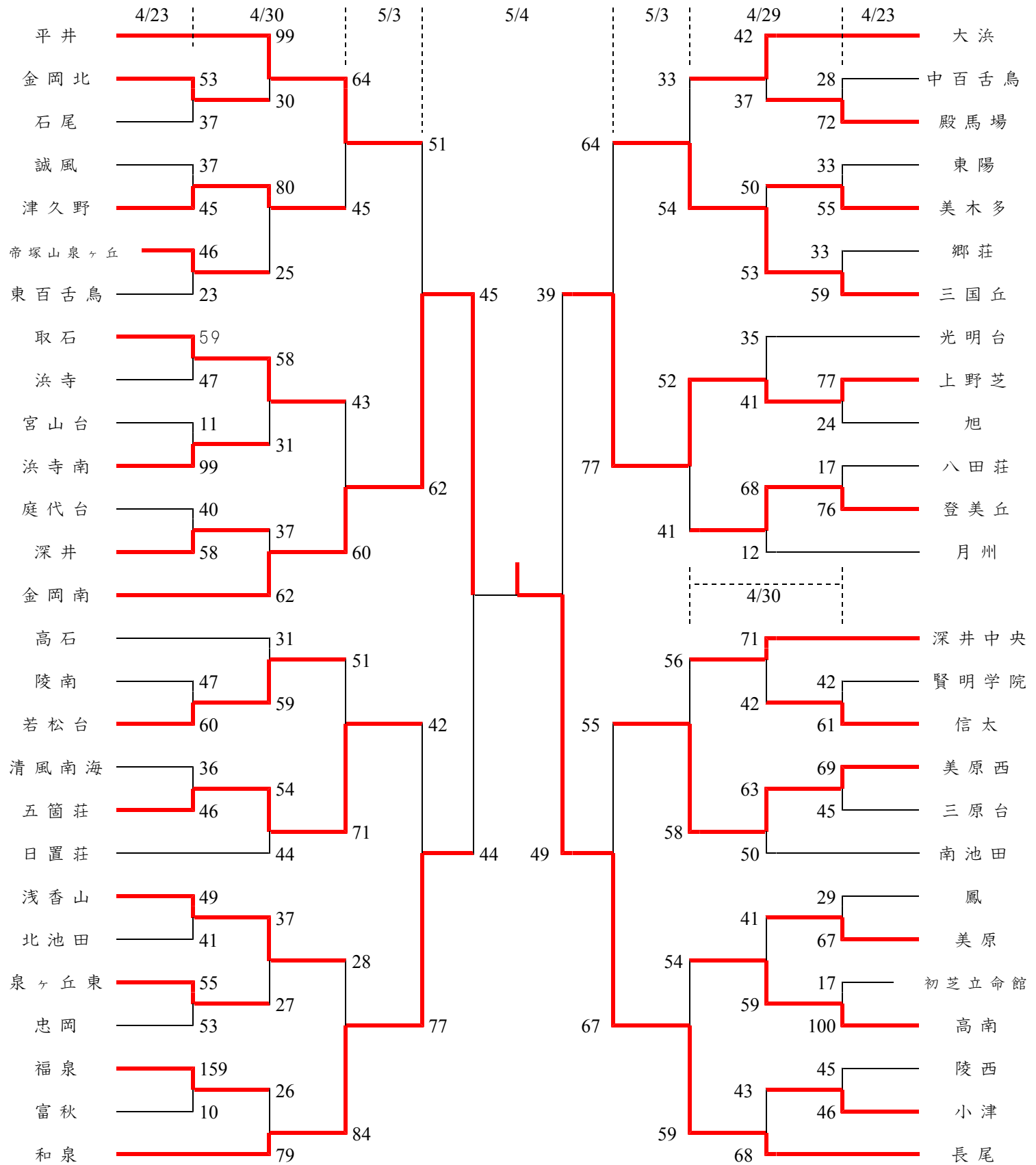


2017年度 泉北地区春季大会

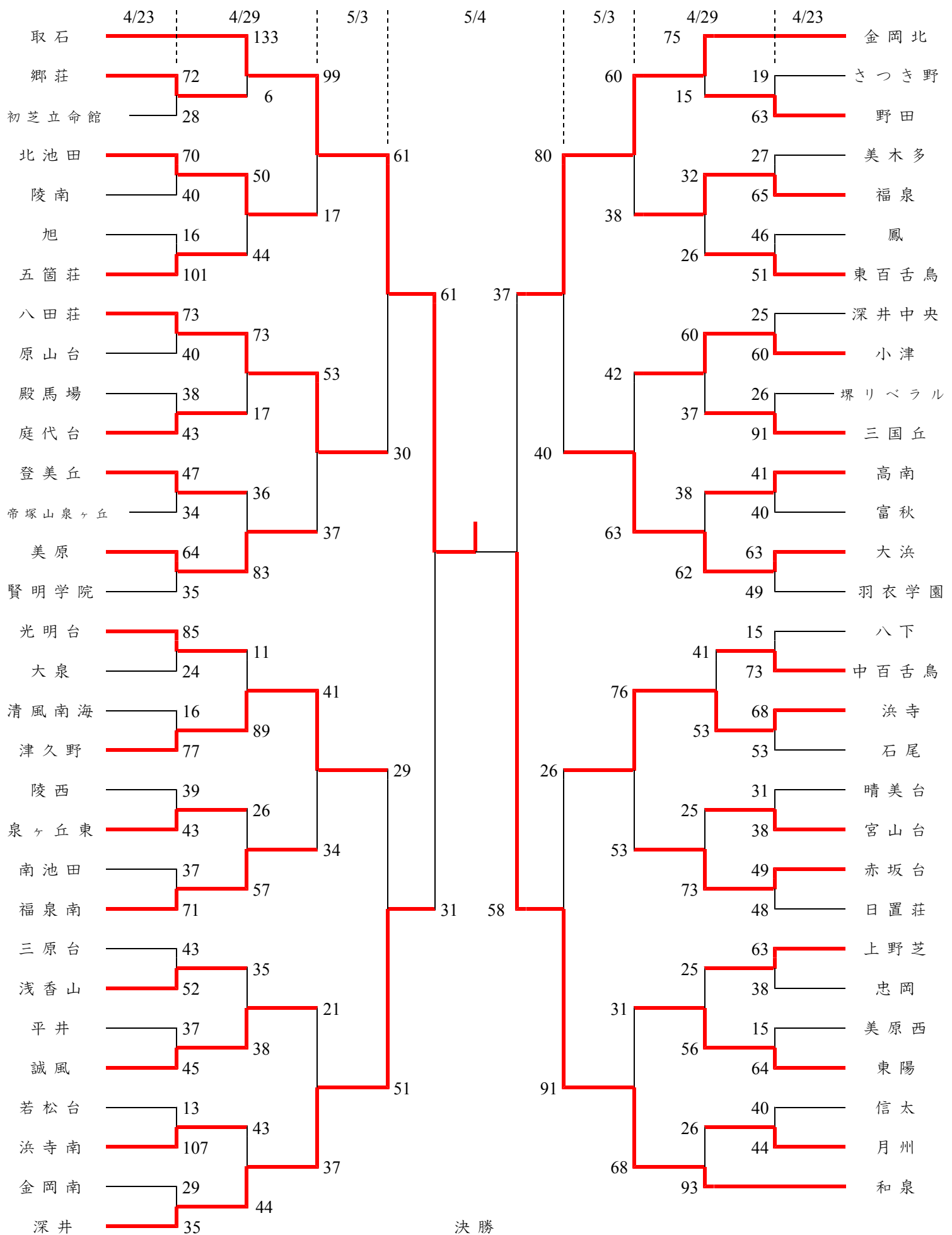
男子の部



決勝
 金岡南 47 - 57 長尾
 5 1Q 13
 8 2Q 12
 23 3Q 13
 11 4Q 19

3位決定戦
 和泉 56 - 46 上野芝

女子の部



決勝
取石 74 - 50 和泉
26 1Q 20
13 2Q 8
12 3Q 10
23 4Q 12

3位決定戦
深井 46 - 59 金岡北

男子決勝戦評

長尾④⑤⑥⑧⑪、金岡南④⑤⑥⑦⑬でスタート。

金岡南の⑥⑦のポストアップに対し、長尾は人数をかけて守る。金岡南はドライブでファウルをもらうがフリースローが決まらない。対して長尾は⑪のスリーポイント、④のミドルシュートで点数をかせぐ。お互いファウルが重なる中、長尾がフローターシュート、合わせなどで連続得点。金岡南はファウルはもらうものの、なかなかフリースローやフィールドゴールが決まらず、イージーシュートも落としてしまう。13-5で1ピリオド終了。

2ピリオドは、長尾⑤の連続得点から始まる。金岡南は速攻からようやくフィールドゴールが決まる。残り4分、長尾④が3つ目のファウルをしてしまう。追いつきたい金岡南だが緊張からか、なかなかシュートが決まらない。長尾のファウルが溜まっていく中、金岡南はファウルをもらうもここでもフリースローが決まらない。気持ちよくバスケットをすることができない金岡南に対し、長尾はミドルシュートをコンスタントに決める。25-13で長尾がリード

後半に入り金岡南がオフェンス、ディフェンスともに、リバウンドでがんばりを見せ、本来のプレーを取り戻すと開始3分で⑥を中心に8得点を奪う。2ゴール差となり、長尾はたまらずタイムアウト。そこからお互い点の入れ合いが始まる。金岡南がスリーポイントを決めれば長尾も決め返す一進一退の攻防。金岡南⑦のチップのブザービートが決まり38-36と2点差までつめよる。

4ピリオドが始まってすぐ、金岡南⑥のステップインでついに同点となる。しかし、スティールからの速攻などですぐに点を奪い返す長尾に徐々に流れが傾き、8点差とされる。しかし、金岡南は⑧のスリーポイントが決まり、流れを取り戻しかけるが、長尾⑤を止めることができず、差が縮まらない。最後は57-47で試合終了。金岡南の高さに対し、脚を止めずに走り続けた長尾が泉北地区初優勝を飾った。両チーム夏の選手権大会に向け、さらなる成長を目指して欲しい。(岡、遠藤)

女子決勝戦評

取石⑥⑦⑨⑩⑪、和泉④⑤⑥⑧⑬

取石オールコートマンツーマン、和泉ハーフマンツーマンから始まる。

取石⑪のシュートが決まり、和泉④がドライブで切り込み、ファウルをもらう。取石は⑨⑪のポストプレーで確実に得点を重ねていく。対して和泉は④⑤⑥のドライブで取石のファウルを誘い、得点を重ねていく。1Qは点の取り合いとなり、26-20で取石が6点リードで終える。

2Qも、引き続き取石の⑨⑪を起点に得点を重ねていく。対する和泉はドライブで攻め込むも厳しいディフェンスに阻まれ、思うようにシュートを決めきれず、取石が11点リードで前半を終える。

3Qは和泉が⑤⑥のドライブで流れをつかもうとするが、取石⑪のポストプレーからの得点でなかなか流れをつかめない。和泉は⑥のドライブからのカウント1ショットが連続で続くも、⑪のリバウンドからのシュートが入りだし、51-38と取石リードで3Qを終える。

4Qになっても取石のディフェンスの脚が止まらず、カットからの速攻が続く。和泉も負けじとドライブシュートで攻め込むも、⑪のインサイドプレイ、リバウンドシュートを止めることができない。最後は74-50で終始リードしていた取石が優勝を飾った。夏の選手権大会での両チームの活躍に期待したい。(山下、額原)